

令和6年第5回議員定数等調査特別委員会 要点記録

開閉会日時	令和6年8月30日（金曜日）			開会	9:53	会議場所		別海町議会 委員会室 1	
				閉会	11:40				
委員の出欠	1 番	市川 聖母	出席	2 番	吉田 和行	出席	3 番	高橋 眞結美	出席
	8 番	田村 秀男	出席	9 番	小椋 哲也	出席	11 番	今西 和雄	出席
	12 番	松原 政勝	出席	13 番	中村 忠士	出席			
委員外の出席							合計	0名	
事務局職員	局長	干場 富夫		主幹	木幡 友哉		合計	2名	
傍聴者数	一般	0名		報道関係者	0名		合計	0名	

会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過
委員長 12番 松原	9:53 開会
	出席委員8名、欠席委員0名、委員外0名、会期1日
	開会挨拶
委員長 12番 松原	議事1 常任委員会の委員会数や名称、所管事項等に係る事項について
事務局 主幹 木幡	資料2、資料3により説明
	・第4回会議の協議内容を基に「①広報・広聴を含めた4常任委員会を維持し、全議員が2委員会に所属する案」と「②広報・広聴を除き2委員会に統合する案」についてのメリット・デメリットを議会サポーターからの意見も含めまとめた。
	①案のメリット 議員間の討議等が可能、委員会人数の確保が可能、広範囲の知識を有することができる、発言の場が増える、委員会所属数の均等な割当ができるため不公平感が少ない
	①案のデメリット 所管事務調査範囲が広範囲となり個々の調査対象事項が増える、招集日数が増える、同時開催が不可能、招集日数・調査範囲が増え個人に係る負担感が増すことから全議員がついてこれられない場合も考えられる、招集回数が増えることで会議日程の調整が難しくなる、招集回数が増えることで職を持った議員が調整しづらくなる（欠席議員が増える可能性がある）、同時開催ができないことから現在の定例会の会期内に収まらなくなる可能性がある、導入自治体が少ない（道内にない）ことから比較対象がない、費用弁償が増える また、①について、制度的には問題がなく、全国で7町村が同様・類似の体制を取っていることを確認した。
委員長 12番 松原	・意見等あるか。
委員 9番 小椋	・①案、②案でメリットはあまり変わらず、デメリットの方向性が違う。①案は日程調整が一番ネックになる。②案は委員長の負担が大きくなるので、委員長副委員長の連携が必要になる。また、広報・広聴に所属する委員の不公平感が残る。
	どちらがいいのかと聞かれるとまだ決めきれない。
委員 2番 吉田	・広報・広聴の扱いで変わらと思う。前日栗山町の議員と話をする機会があったが、栗山町は広報・広聴に全員所属で半数ずつ広報と広聴に分けて小委員会を設けているとのこと。
委員 9番 小椋	・議会だよりが年4回の定期的な仕事でボリュームがある。広聴でさらに新しいことをとると、今の体制では大変。
	適正に配分・補完できて、広聴という議会全体に重要な部分に全員が関

令和6年第5回議員定数等調査特別委員会 要点記録

委員長 12番 松原

副委員長 8番 田村

委員 11番 今西

副委員長 8番 田村

委員 13番 中村

委員長 12番 松原

委員 9番 小椋

委員長 12番 松原

事務局 主幹 木幡

委員 9番 小椋

わかることのできる栗山町の小委員会というのは面白いと感じた。

・広報・広聴に関しては町それぞれあると思うので、この後の議題にも関わるが、関連として調査してみたい内容があれば意見をいただきたい。

・少しいいか。栗山町は12名で広報と広聴が半数の6名ずつとなるが、広聴の仕事をどれだけやるかによる。別海町の現状は、年に1回の地域めぐり懇談会が仕事のほとんど。仕事量の位置付けをするのが先では。

①案は、定例会中の日程調整が特に難しい。そうすると②案で、公平感を保つには、広報・広聴と議会運営委員会で半数ずつという案も考えられる。

・②案では所管が増えるので委員長の負担が増える。副委員長にも所管との調整役をしてもらってスムーズに進める手段を検討するかどうか。

・別海町の場合は1年間の調査内容を決めている。その段階で調査可能な量を判断すれば②案でも困ることはないと思うが。

・①案にするにしても、②案にするにしても、広報・広聴の方向性をはっきりさせる必要がある。議会としてはいい方向に向かっているが、広聴については課題があるという話も出ていることを踏まえて、全員参加なのか、半数でいいのか議論する必要がある。

また、先ほど副委員長の案として、広報・広聴と議会運営委員会に分かれて所属するというのも一つのアイデアと思うので、議会運営委員会の在り方も議論していけば、どちらがいいかというのが出てくるのではないだろうか。

・議会運営委員会についても、改めて議論するときだと考えている。

かつては委員長、副委員長を入れて8人体制だったこともあったと思う。それが定数減によって、議会運営委員会も減ってしまった。議会運営委員会は、議会を運営する1番大事なところ。若い議員を入れても結構なのではないかと思う。

・広聴の在り方を決めるということはそのとおりだと思う。①案の場合、広報・広聴の人数が今と変わらないので、広聴に力を入れてやっていきたいと思いますとなった場合、実際これ以上負荷がかかるようなことはできない。

広聴にどのように力を入れるかによって、①案、②案が必然的に決まってくるというのは腑に落ちたところ。

ただ、当委員会で広聴をどうするかを決定するのは調査の枠を越えてしまうかと思うところ。

また、現在の議会運営委員会は実質委員長会議となっているが、連絡調整等、重要な場となっているのも確か。委員長会議として位置付けるのであれば、広報・広聴の委員長も入れるべき。

ただし、委員長会議となっていることにはデメリットもある。新しい取組をしたり、全体に関わることをするとき、委員長の話しか聞けないので硬直化する傾向がある。

議会運営委員会の人数を増やすことは一つの手だと思った。

議事3 議会運営委員会の編成論議について

・議事2は資料を見てもらうこととして、議事3の議会運営委員会について議論していただきたいと思う。

資料8により説明

・本町と同じ構成の町村も複数あるが、議長以外全員で構成している町村や、広報関連委員会と重複しないような構成の町村もある。

・まず思うのは、委員会主義としている以上、広報・広聴も入れるべきかと。

令和6年第5回議員定数等調査特別委員会 要点記録

		広報・広聴も常任委員会であり、議会運営に大きく関わることから入っていないのは違和感がある。
		また、本町のように委員長しかいないのも少し問題かと思う。議会運営委員会の委員長・副委員長は、常任委員会の委員長ではないほうが負担を軽減できるのではないか。そうすることで1枠増え、例えば2期議員を副委員長とするなど、広く意見が聞きやすくなるのではないかと思ったところ。
委員長	12番	松原
		・ 当時は広報・広聴は特別委員会だったことの流れから議会運営委員会には加わらなかったと記憶している。
委員	9番	小椋
		・ 橋渡しとして現在副議長が広報・広聴に所属することとなっているが、議会運営委員会とは直接やり取りができない状況なので、このタイミングで見直すのがいいのではないか。
委員	13番	中村
		・ 現在の体制は形骸化していて、正直なところ、議会運営委員会の委員からその内容に関する報告はあまりないので、うまく回っていないのではないかとというのも事実。
		なお、資料について質問だが、各委員会への所属を決める順序も重要かと思う。各町村の議会運営委員会委員の選び方は分かるか。
事務局	主幹	木幡
委員	9番	小椋
		・ 直接聞取りしなければ分からない。
副委員長	8番	田村
		・ 予算決算特別委員会の常任化案について、土山サポーターと話した感触を教えてもらえれば。
		・ 全国的に見た場合の意見として話していた印象。確かに常任化している町村もあり、調査も可能となるメリットはあるが、日程調整や会議時間等で収集がつかなくなる恐れがある。
事務局長		干場
		・ 常任委員会が減ることを危惧している印象。委員会数が減ることは、町民から見れば議会活動の減退と取られかねないので、4委員会を保持するためといった趣旨があったと思う。
委員	9番	小椋
		・ 予算決算は特設か常設かで言うと常設な気がするので若干違和感があるところ。
		調査ができることが大きく、例えば入札制度に関する疑問点などは予算委員会で財政課に聞くこともできる。仕切りの難しさはあるが、うまくコントロールすれば可能性は感じる。
副委員長	8番	田村
		・ 過去は、予算決算に関する事項も各常任委員会で調査していた時期もあるが、うまくいかなかったからか今の状況になっている。
委員	9番	小椋
		・ 先日常任委員会で予算として提出予定案件について、事前審査に当たるのか否かという問題が出たが、予算決算委員会が常任化されれば、そこでしっかり調査もできるのではないか。
委員長	12番	松原
		・ 予算決算委員会を常任化している町村は分かるか。
事務局	主幹	木幡
委員長	12番	松原
委員長	12番	松原
委員長	12番	松原
		休憩 10:58
		再開 11:08
		・ 広報・広聴や予算決算の委員会構成等、様々議論があったが、視察調査に関する意見があればいただきたい。
委員	9番	小椋
		・ 広報・広聴の在り方が方針に大きく関わると思う。広報・広聴に関する方針を決めないと委員会構成が決められないだろうという思いは新たにでてきた。
委員	2番	吉田
委員	9番	小椋
		・ 広報・広聴に関する町村の視察はしておきたいと思う。
		・ 広報・広聴の視察先として、栗山町はいいと思う。
		議会運営委員会に関しては、各町村で位置付けが違ったり、いろんなバ

令和6年第5回議員定数等調査特別委員会 要点記録

			ランスの上に成り立っていることから、聞きづらいと思ったところ。
委員	2番	吉田	・栗山町では現在報酬に関する特別委員会を設置し調査していることから報酬に関することも聞くことができる。
委員長	12番	松原	・9月定例会で補正予算を要求している。公用車移動なので冬は避けたいが、栗山町の他にも意見があればいただきたい。
			また、議事3の続きとして、議会運営委員会編成についても併せて意見をいただきたい。
委員	9番	小椋	・委員長会議としての役割も必要だが、それだけでは偏ってしまうので、まずは広報・広聴を加えるようにしたほうがいいというのが1点と、委員長以外の議員も入れることができたらいと思う。議会運営委員会の委員長と副委員長は常任委員長以外から選出するなど、常任委員長とそれ以外の人数バランスを取れる仕組みがいいと思っている。
委員	11番	今西	・議会運営委員会での協議内容を各常任委員会に持ち帰った時に、伝える時間がなかなか取れないのが現実。副委員長など同常任委員会から複数人所属するなど、そういった部分を解消する構成を考える必要があると感じている。
委員	3番	高橋	・視察の件だが、議会運営委員会に関してはこの委員会内でまとめられると感じた。やはり広報・広聴常任委員会の構成が重要だと感じたので、広聴に力を入れている町村を視察するのがいいかと思う。
委員	1番	市川	・視察先について、定数とは違うかもしれないが、なり手不足の解消という面では、女性議員や若い世代の議員が増えるべきと考えていて、浦幌町は20代、30代の議員が多く、子育て世代の議員がいるというのはなかなかないと思うので、こういった方々が手を上げるようになった方法などを聞いてみたい。
委員	9番	小椋	・報酬や定数がどう影響しているのかを見るという側面からは十分調査対象となりえると思う。
			浦幌町は半分以上が40代以下で、若いということは町民の議会への関心も高いはず。若い人が政治的な部分に関心があって積極的に関与している町の現状を見ることも観点としてはいいと思う。
委員	13番	中村	・議会運営委員会に関しては、委員長会議的な側面が強く、話を広げたい時に限界があるという話から、その辺をどう広げるかが課題になる。議論の広がりや工夫をどう作るかで工夫することが求められているかと思う。
			視察については、委員会定数を減らした町村があればそこに行くのもいいのではないかと。サポーターの話でも、3委員会から2委員会にしてもやり方を工夫すればいいのではというアドバイスがあったので、委員会数を減らした町村がどのように調整しているかを見たいという感じがする。
事務局	主幹	木幡	・栗山町が直近で委員会数減をしているかを確認して報告する。
副委員長	8番	田村	・今出た意見を網羅できるかどうかは分からないが、正副委員長で調整する。
委員長	12番	松原	・視察内容については追ってタブレットで報告する。
委員		一同	・異議なし。
委員長	12番	松原	・ほかに何かあるか。
委員		一同	・特になし。
委員長	12番	松原	・次回開催日程について、9月30日10時からとしてよろしいか。
委員		一同	・異議なし。
委員長	12番	松原	閉会挨拶
委員長	12番	松原	11:40 開会